

会 議 名	第2回協働によるまちづくりに関する意見交換会 地域での支え合い～子育て・教育～
開 催 日 時	平成31年1月26日（土） 14時～16時
会 場	新狭山公民館 ホール
出 席 者	31名
講 師 (ファシリテーター)	合同会社 Active Learners 共同代表 山ノ内 凜太郎 ・ 米元 洋次
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. アイスブレイク 3. 情報共有「協働によるまちづくり条例にかける想い」 4. グループワーク <ol style="list-style-type: none"> ①Aさん、Aさんの母親に対して必要な支援を考える ②支援をするにあたって、どのようなものが必要となるか考える 5. ふりかえり 6. 閉会
グループワークで 出た意見 アンケート結果	<p><グループワーク①、②で出た意見></p> <p>別紙参照</p> <p><アンケート結果（抜粋）></p> <p><u>Q1：今回の意見交換会に参加してどう思いましたか？</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭山市のことを考える人がたくさんいて嬉しかった ・協働の難しさを感じたが、色々考える良い機会になった ・思いもしなかった悩みや課題があった ・多様な意見を聞くことができてよかった ・色々な方と色々な話（考え方や問題点）をさせていただき参考になった ・様々な主体が今後の狭山のために活動されているのを知ることができ、とても良い機会になった ・同じ“子育て”という仕事に携わっている方達と違う視点で話せたのがよかった ・育メン、無料学習塾、市議会議員の方と話し合うことができ、真剣に思う気持ちは一緒であり希望が持てた。こうした組み合わせで話すことはなかなかできないので有意義であった。 ・他のテーブルの方とも話してみたかった ・普段考えが及ばないところへも関心を持つことができた ・自分の活動を振り返ることができ、新たな発信・啓発の必要性を感じ、大変勉強

になりました

- 「教育」という観点で集まった方々が考えている事は、概ねベクトルが合っていると感じた
- 意見交換そのものよりも、このような回を重ねて、同志のネットワークを作ることには意義があると感じた
- 「教育」というテーマに対して、多くの人が「学習の機会、場所」がネックと考えていた
- 一人の考えだけでは思いつかないことでも、立場や経験の異なる人が多く集まる、ことで思いつくこともあると感じた

Q2：あなたが感じた課題は何ですか？

- 情報のシェア
- 支援が必要な方への情報提供
- 一人一人の親が得られる情報が少ない
- 色々と思っていることはあるので、もっと意見が気軽にいせれる場があるといい
- 課題と取組み方法の共有
- 実際のシングルマザーの声を吸収する方法
- 将来を担う子供達への支援
- 地域に埋もれている高齢者（知識、経験）の活用
- 退職者でまだ色々活動されていない方をボランティア活動に参加していただくよい方法を考える
- 人のつながり
- 相手が支援を必要としていなくても、情報提供などお節介ができる人たちが必要
- 「予算（カネ）」と「情報」。お金がなければ、稼ぐ為に時間が奪われ、子どもに関わる時間がなくなる。そのような中で教育することは非常に難しい
- 地域により、取り組む意識の差が大きい
- 課題を感じていながら、一歩を踏み出せていない人が多い
- 市民と行政の協働
- 行政と地域の間に入る存在が必要
- 子育て、教育の問題は、コミュニティサポートの問題として、何をどうサポートするかの方策を市民の問題として深く考える必要性を感じた
- 子どもの安心・安全な居場所

Q3：課題の解決に向けて何が重要だと思いますか？

- ただひたすら子どもと行ける場所や生活に関連する場所・人・物を発信し続けること

- 対話
- 相手を思い、考えることが大事
- 課題解決にあたって、どのようにお金を掛けずに解決するか考えること
- 親の教育と居場所づくり
- つながりを深めることができる場
- 自治会、地域のネットワーク
- 後継者の育成
- 人とのつながり
- 地域のつながり、お互い様精神
- お節介できる人
- カネをこどもたちの育成に振り分けること
- 情報を取りにくることを待つのではなく、行政等からアウトリーチする仕組み
- 職員全体で議論を重ね実現していくこと
- 行政の見える化の推進
- まずはやってみること trial and error
- それぞれの立場でできることをやっていくこと
- 子ども、親とそれぞれの居場所
- NPOや地域のボランティア
- 話し合い色々な活動を知ること
- やるべきことの抽出と優先順位をつけること
- マイノリティーに目を向けて手を差し伸べること
- 市からの情報発信
- 情報の共有化・助成金
- 若い世代の意見を得る手段の整備
- こども達に対して、多くの大人が関わること

Q4：課題の解決に向けてあなたは何ができると思いますか？

- 自分のできることをできる範囲でやっていく（ボランティアなど）
- こども達へ自己肯定感の育成（こども会事業の推進）
- 他人事と思わず、当事者意識を持ちたいと思う
- 現在行っている各種ボランティアの後継者育成
- ママ友や近所の人への情報提供
- 一市民として、こども達が住みやすく、大きく育っていける街にしたい。そのために、そのような政策や条例の後押しをしていきたい
- 地域の子ども、保護者のためにどんな支援が必要か考え、実現していくこと

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">• 情報発信• 学習支援拠点、居場所づくりの拡充• こども達に対しては気にかける大人。大人に対しては居場所の提供• 自分が知り得た情報や知識の提供• 周りに対するちょっとしたお節介。色々と声をあげること• 地域の子どもに目を向け見守ること。どう接することができるか考えること• 一つ一つ取り組んでいくこと（積小為大）• 引き続き「学習支援」という形で、地域のこども達にボランティア講師として接する |
|--|---|